

## 2022年度第3回 外洋常任委員会 議事録

開催日；2022年12月2日（金）18:00～19:20

会議の場所及び方法：スポーツマンクラブとWEB会議（Zoom）の併用開催

出席者：（理事）

中澤信夫 副会長、中村隆夫副会長、大村雅一 常務理事、望月宣武 常務理事、  
中村和哉 理事、萩原ゆき 理事、鈴木祥子 理事、石川彰 理事、井上貴支 理事、  
岩瀬善貞 理事、沼田浩行 理事、船澤泰隆 理事、

（委員会関係）

川合紀行 外洋計測委員長、平出篤志 外洋安全委員長、  
三浦伸朗 レースマネジメント委員会外洋小委員会委員長  
日下部大蔵 ルール委員会外洋規則小委員会委員長

久保田悟 キールポート強化委員会委員長

船澤泰隆 国際委員会外洋小委員長（理事兼）、

坂谷定生 参与、

（事務局）

鈴木保夫 外洋事務局長、

小山悟 外洋艇登録事務局長

（敬称略）

記録者 鈴木保夫

大村常務理事の進行で18:00より中澤副会長の開催の挨拶で開始した。

中澤副会長より日本セーリング連盟の河野名誉会長が11月5日に逝去されたことが  
報告され、出席者で黙とうが行われた。

中澤副会長：河野名誉会長はオリンピックの誘致からセーリング競技を江ノ島で開催  
するまで大変なご尽力をされた。

正式発表は未だだが3月にお別れの会を計画しています。

外洋は様々なレースが行われていますが、馬場会長は来年コロナが明けたら全国の  
加盟団体やヨットクラブを訪問するお考えを持っています。

決まったら改めてご報告をしますので宜しくお願いします。

議事

### （1） 報告事項

#### ・ World Sailing の外洋の方向性について

船澤理事よりワールドセーリングのオフショアコミッティーからの報告がなされ  
れた。

船澤：外洋ダブルスは、今年はダブルハンドという言葉で表現されている。

2032年のブリスベンに向けて種目に入れることを目標にしている。

これまではワンデザインであったが、ワンデザインとレーティングとの両方を採用し艇数を増やす方向で話が進んでいる。

まだ具体的な計画が出来ず難しい雰囲気である。

#### ・外洋ダブルス日本選手権 2023 について

大村常務より、今年と同様に来年も外洋ダブルス日本選手権を開催し、スタートは5月1日、来週以降実行委員会を開催して具体的に進めて行くことが報告された。

坂谷：今回もエントリーフィーが5万円となっているが、今年は沖縄レースと重なり、外洋東海で経費が節約できていた。来年は沖縄レースが無いので、実行委員会においてエントリーフィーの値上げ等の措置が必要と考える。

大村：実行委員会で検討したい。

#### ・小笠原レース 2023 について

大村：JSAF と外洋団体との共同主催で進めていきたい。今のところ共同主催には JOSA のみが手を挙げている。

JSAF の中期計画にも外洋レースの振興をあげているので、JSAF の各委員会の協力を得て実行委員会で進めていきたい。

レースの概要は資料の通りである。

坂谷：共同主催は JSAF (外洋常任) ではなく、JSAF とすべきであり、共同主催の相手は JOSA だけではなく、関東の団体にも入ってもらいたい。

大村：外洋常任を削除する。各団体の結論を待ってそのようにしたい。

川合：IRC の規則の変更で、ショートハンド証書の名称がセカンダリー証書に変わる。小笠原レースの公示の表現を、混乱を招かないように工夫して頂きたい。

大村：サバイバルトレーニングは来年の2月頃に開催することで検討している。

## (2) 各委員会、各水域報告

### ・外洋計測委員会

川合：為替の変動により海外レーティングオフィスからも値上げの連絡が入り来年度の IRC の料金改定を行う。

ショートハンド証書がセカンダリー証書に名称が変わる。

IRC と ORC の証書発行数は資料の通り。

JSAF のメインレーティングシステムは IRC であり、IRC 主体のデュアルスコア

リングシステムを推奨する方針であったが、一部の団体ではダブルエントリー方式を採用している。

これはフリートの分散を無くす目的とは異なる運営方法と考える。

2023年からはIRC証書取得を条件にORC証書を発行する事を検討している。

三浦：IRCとORCはそれほど精度の違いは出ないのではないかと思う。

ORCのレベルの高いレースを使用とするとレース運営のスタッフの人数も増えることや、距離や角度等も重要になってくるので、レーティングの良し悪しだけでなく、運営に掛かる負担も考えていかなければならないと思う。

レーティングがお互いに敵対しているような議論も見受けられるが、それはユーザーを減らす原因にもなるのではないかと感じている。

大村：レーティングの経緯は時間も経ち経緯を知らない人もいると思うので1月の団体長会議や2月の合同会議で、世界の状況とも合わせて丁寧な説明をお願いしたい。

鈴木祥子：ワールドセーリングでは、IRCとORCを合わせたようなユニバーサルメジャメントシステムを作ろうとの話が外洋委員会に出ていた。

- ・レースマネジメント委員会

三浦：公認審査等を行った場合はレガッタレポートの提出が必要である。

- ・レース委員会外洋小委員会

日下部：小笠原レースはカテゴリ-2なのでそれを軸にして考えていきたい。

- ・キールボート強化委員会

久保田：大学対抗とU25マッチレースを2月24日～26日に開催する。

キールボートパーク構想を進めている。

- ・ジャパンカップ委員会

中澤：ジャパンカップの活性化について、いつも参加している関東のオーナーと打ち合わせの予定。

- ・北海道・東北水域

石川：冬なので前回の報告からはレースは開催されていない。

- ・関東水域

井上：関東ではパーティーは縮小されているが、レースはほぼ通常通り開催されて

いる。今年の主なレースはほぼ終了している。

・中部水域

岩瀬：駿河湾では予定通り開催されている。東海では8月のクルーザーミーティングとデニスコナーカップは中止。東海チャンピオンシップは14艇で開催された。

・関西水域

中村：今年20年続いている島精機カップは59艇の参加で11月初旬に開催された。450人の大BBQパーティーを開催した。

・九州・沖縄水域

沼田：9月以降コロナの感染の影響も少なくなり、悪天候による中止以外は例年通りのスケジュールで活動ができた。来年は積極的に圏外艇の受け入れを行い積極的にレース活動を行う。

・JCI 評議員会報告

鈴木保夫：評議員会は資料の通りだが、JCAIは規則を変えるところではなく、装備品の規則は国交省が決めそれに元づく装備品の検査をするのが役割である。評議員会は決算と事業報告が主であり、今年は知床の遊覧船の事故の報告がなされた。昨年研究テーマとしてJSAFから提出した通信に関するテーマは国交省で検討しているとのことであった。

(3) 加盟団体長会議について

大村常務より、1月29日にWEBと併用で開催する事、1月19日に外洋常任委員会を開催することが報告された。

(4) その他

大村常務より明日の理事会の議題の概要説明がされ、表彰については鈴木祥子理事より、海外における表彰の対象等が紹介された。

船澤理事より、JSAFは子供たちにセーリングに関心を持ってもらうためのシステムが整っていないのではないかとの意見があり、大村常務より先ずは興味のある人で検討する場を設けたいとの意見が出された。

以上